eastspring investments

交付運用報告書

イーストスプリング・フィリピン株式オープン

追加型投信／海外／株式

作成対象期間　2021年９月８日～2022年３月７日

第19期 2022年３月７日決算

日経新聞掲載名：フィリピン株

第19期末	基準価額	8,840円
	純資産総額	1,178百万円
第19期	騰落率	8.1％
	分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主にフィリピンの企業の株式等を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜わりますよう、お願い申し上げます。

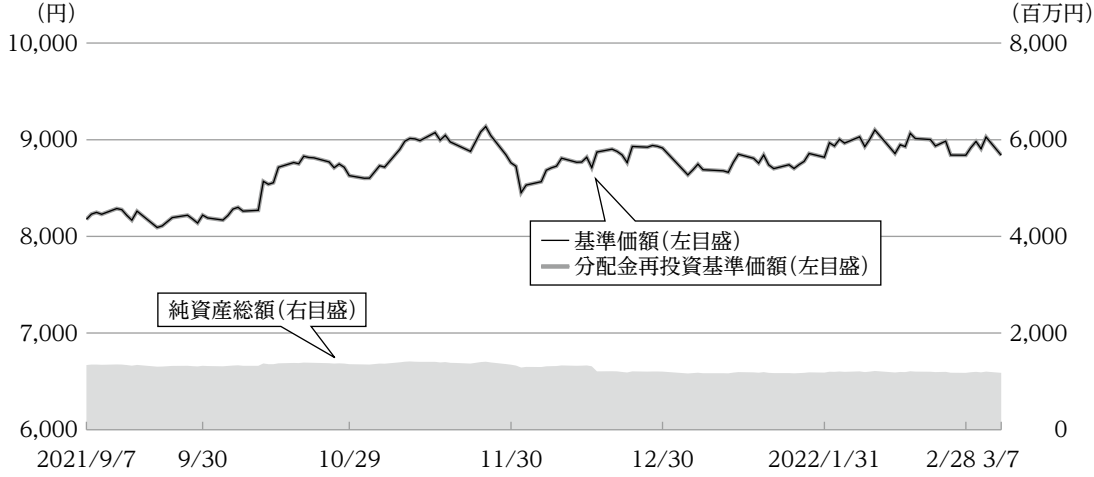
イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
〒100-6905
東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング
https://www.eastspring.co.jp/
〔お問い合わせ先〕
電話番号：03-5224-3400
（受付時間は営業日の午前９時から午後５時まで）

当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
ホームページにアクセス ⇒「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書（全体版）」を選択

運用経過

基準価額等の推移について　(2021年9月8日～2022年3月7日)



第19期首	8,177円
第19期末	8,840円（既払分配金0円）
騰　落　率	8.1%（分配金再投資ベース）

(注1)分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2)分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3)分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

上昇要因	・投資対象ファンドを通じて保有する株式が上昇したこと。 ・通貨ペソが対円で上昇したこと。

１万口当たりの費用明細　（2021年９月８日～2022年３月７日）

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a)信託報酬	59円	0.682%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、8,697円です。
（投信会社）	（23）	（0.262）	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	（36）	（0.409）	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	（ 1）	（0.011）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b)その他費用	4	0.042	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	（ 4）	（0.042）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷）	（ 0）	（0.001）	目論見書および運用報告書等の法定開示書類の作成費用等
合計	63	0.724	

（注１）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

（注２）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

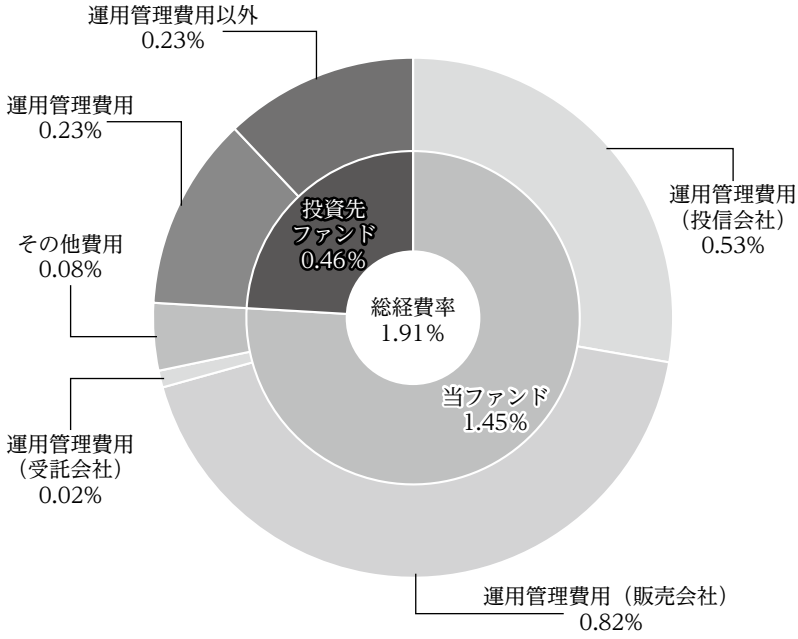
（注３）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

（注４）各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「１万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

（参考情報）

■総経費率

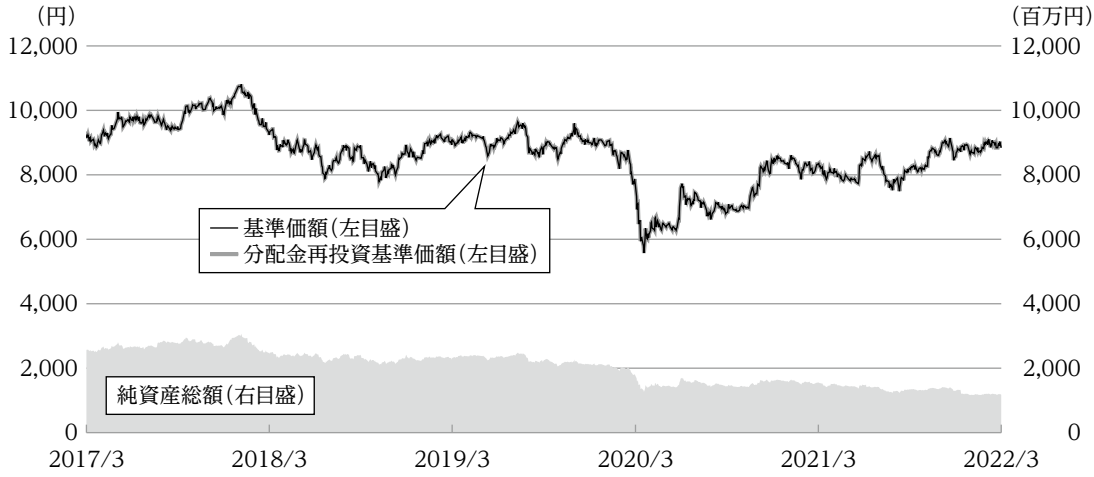
当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.91％です。



総経費率（①＋②＋③）	1.91％
①当ファンドの費用の比率	1.45％
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23％
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.23％

（注）①の費用は１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。
（注）①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
（注）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移について　（2017年３月７日～2022年３月７日）



（注１）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注２）分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様１人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

（注３）分配金再投資基準価額は、2017年３月７日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日	2017/3/7	2018/3/7	2019/3/7	2020/3/9	2021/3/8	2022/3/7
基準価額　（円）	9,149	9,241	9,085	7,331	8,359	8,840
期間分配金合計（税引前）　（円）	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率（%）	—	1.0	−1.7	−19.3	14.0	5.8
純資産総額　（百万円）	2,555	2,450	2,312	1,688	1,556	1,178

＊当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

フィリピン株式市場

当期のフィリピン株式市場は上昇しました。

期初から2021年11月中旬にかけてはフィリピン国内で新型コロナウイルスのワクチン接種が急速に進展し新規感染者数が大幅に減少したことを受けて、ロックダウン（都市封鎖）が段階的に解除されていることを好感し、株式市場は上昇基調をたどりました。しかし、その後新たに変異株であるオミクロン株による感染が拡大したことから、再び一部商業施設等でのロックダウンが実施され、株式市場は11月末にかけて一時反落しました。年明け以降は、エネルギー価格の高騰によるインフレ懸念が台頭する中、概ね横ばいで推移していた株式市場は、新規感染者数が減少したことを好感し、経済再開への期待から期末にかけて堅調な展開となりました。

為替市場

フィリピンペソは、期初から2021年10月半ばにかけては、米国でインフレが進行し、テーパリング（量的緩和の縮小）観測が高まる中、米ドルに対し下落しました。その後は、新型コロナウイルスの新規感染者数がフィリピンで減少したことが好感され、フィリピンペソは米ドルに対し上昇しました。12月後半以降は、更なるインフレの高進により米国で利上げが実施されるとの見方が強まり、フィリピンペソは対米ドルで下落しました。期末にかけてはロシアのウクライナ侵攻による地政学的リスクの高まりなどから、一段の米ドル高となり、通期でも下落しました。

また、円は米国との景気格差や米国における金融引き締め政策への転換が見込まれたことなどを受けて、対米ドルで下落しました。通期ではフィリピンペソ高円安となりました。

国内債券市場

期初から2021年10月半ばにかけては、欧米の長期金利上昇を受けて日本国債利回りも上昇（価格は下落）しましたが、12月半ばにかけては新型コロナウイルスの変異株の拡大懸念などから日本国債利回りは低下しました。しかし、年明け以降2022年２月半ばにかけてはエネルギー価格の高騰などから日本国債利回りは上昇しました。期末にかけては、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて日本国債利回りは低下しました。

ポートフォリオについて

当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ（以下「フィリピン・エクイティ」ということがあります。）の組入比率を高位に保つよう運用しました。

フィリピン・エクイティ

フィリピン株式を主要投資対象とし、長期的な成長を目指した運用を行いました。個別銘柄調査とバリュエーションを重視し、市場全体およびセクター内で割安に評価されている銘柄を中心に投資を行い、割高となった銘柄の組入れを減らしました。

当期は、コロナ禍からの経済活動の再開を受けて不良債権の減少等により大幅な収益増加期待が高まった銀行Metropolitan Bank & Trust Coや新型コロナウイルスの新規感染者数の減少によりショッピングモールへの人出が増え、売上の回復が期待された不動産会社SM Prime Holdingsなどの保有がプラス要因となりました。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA国債インデックス（1－10年債）を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドの運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきました。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）

項目		第19期 2021年9月8日 ～2022年3月7日
当期分配金	(円)	－
（対基準価額比率）	(%)	－
当期の収益	(円)	－
当期の収益以外	(円)	－
翌期繰越分配対象額	(円)	1,419

（注1）「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注3）－印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

当ファンド

主要な投資対象の一つであるフィリピン・エクイティの組入比率を高位に保つことを基本とします。

フィリピン・エクイティ

フィリピンでは新型コロナの変異株オミクロン株などの感染の広がりを受けて2022年の年明け以降、新規感染者数が１日当たり３万人を超えるなど大幅な増加が見られましたが、足元では千人未満まで減少し経済活動は正常化に近づいています。今後は、更なるワクチン接種の進展、移動制限の緩和、家計所得の改善などから、経済の循環的な回復と力強い成長が期待されます。５月９日に投開票が予定されている大統領選挙後は、市場のボラティリティも落ち着き、新予算案の編成や海外からの投資を支援する新法の成立が見込まれるなど、政策的なサポートも下支え要因です。

セクター別では、割安だと考えられる金融を選好し、割高だと判断したコングロマリット（複合企業）、消費関連株の組入れを低めに維持する方針ですが、引き続き投資環境の変化に対する市場の反応などに留意しつつ、下落局面では割安となったファンダメンタルズの強固な優良銘柄に選別投資を行います。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ｉ（適格機関投資家向け）

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス（１－10年債）を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

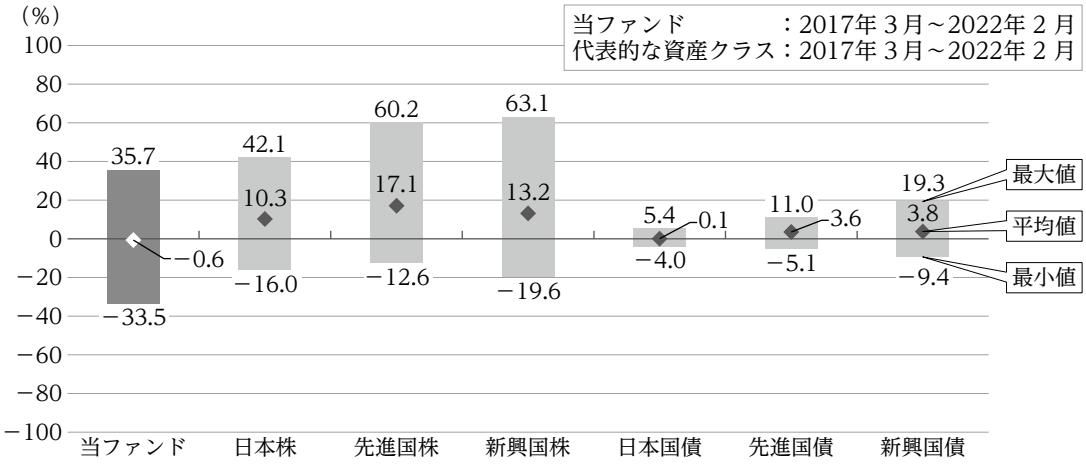
商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限(2012年９月28日設定)
運用方針	主にフィリピンの企業の株式等を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスＪ」の投資証券（米ドル建て）およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ｉ（適格機関投資家向け）」の受益証券（振替受益権を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 ・株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時（毎年３月７日および９月７日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準および市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ｉ（適格機関投資家向け）」のベンチマークについて

ICEデータ・サービスおよびその関連会社は、提供するインデックスデータに関してその継続性、正確性、完全性を保証するものではなく、当該データ提供に係り発生し得る損害についてもその事由の如何を問わず責任を負うものではありません。

（参考情報）代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近１年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。
※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）（配当込み）	株式会社東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数（ＴＯＰＩＸ）の商標又は標章に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が有しています。
先進国株	ＭＳＣＩコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）	MSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	ＭＳＣＩエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）	
日本国債	ＮＯＭＵＲＡ-ＢＰＩ国債	野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。
先進国債	ＪＰモルガンＧＢＩグローバル（除く日本、ヘッジなし・円ベース）	J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。
新興国債	ＪＰモルガンＧＢＩ-ＥＭグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

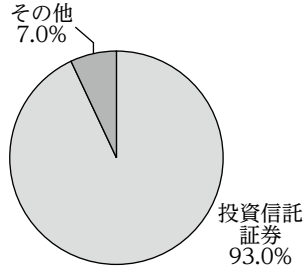
組入ファンド

（組入銘柄数：２銘柄）

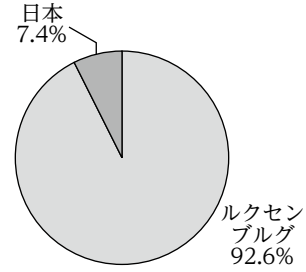
ファンド名	第19期末 2022年３月７日
イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスＪ	92.6%
イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ｉ（適格機関投資家向け）	0.4%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

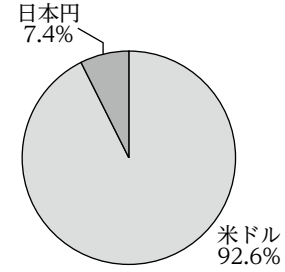
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

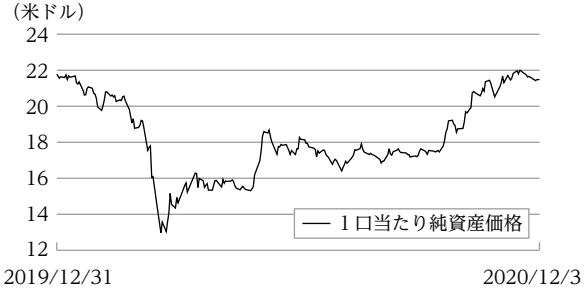
項目		第19期末 2022年３月７日
純資産総額	(円)	1,178,056,767
受益権総口数	(口)	1,332,656,078
１万口当たり基準価額	(円)	8,840

＊当期中において追加設定元本額は55,232,742円、一部解約元本額は360,406,954円です。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ>

基準価額(1口当たり純資産価格)の推移



1万口当たりの費用明細

(2020年1月1日～2020年12月31日)

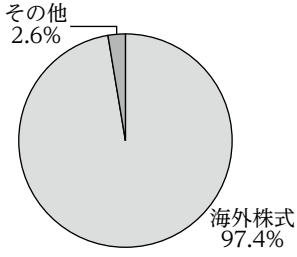
当該期間のAnnual Report(監査済み)には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

以下は、イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンドの内容です。

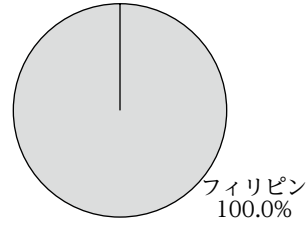
組入上位10銘柄(組入銘柄数：35銘柄) (2020年12月31日現在)

銘柄名	業種	国・地域	比率
SM Prime Holdings Inc	不動産	フィリピン	10.0%
SM Investments Corp	資本財	フィリピン	9.7%
Ayala Land Inc	不動産	フィリピン	8.6%
Ayala Corp	資本財	フィリピン	6.0%
JG Summit Holdings Inc	資本財	フィリピン	5.2%
Bank of the Philippine Islands	銀行	フィリピン	4.9%
BDO Unibank Inc	銀行	フィリピン	4.8%
Metropolitan Bank & Trust Co	銀行	フィリピン	4.4%
Universal Robina Corp	食品・飲料・タバコ	フィリピン	3.5%
Aboitiz Equity Ventures Inc	資本財	フィリピン	3.4%

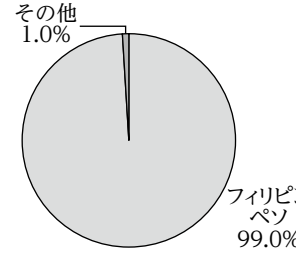
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1)組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの(監査済みおよび同時点の関連データを含む)を使用しています。

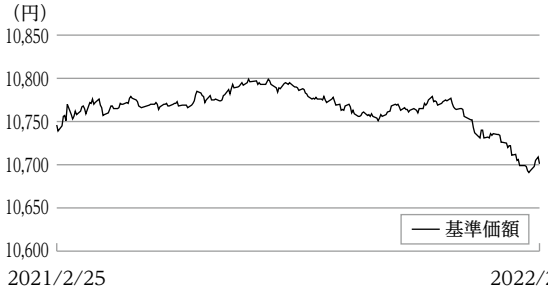
(注2)組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

＊組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

＜イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ｉ（適格機関投資家向け）＞

基準価額の推移



１万口当たりの費用明細

（2021年２月26日～2022年２月25日）

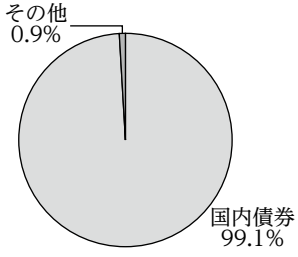
項目	金額	比率
(a) 信託報酬	24円	0.220%
（投信会社）	(15)	(0.143)
（販売会社）	(2)	(0.022)
（受託会社）	(6)	(0.055)
(b) その他費用	2	0.014
（監査費用）	(2)	(0.014)
合計	26	0.234

組入上位10銘柄（組入銘柄数：12銘柄）

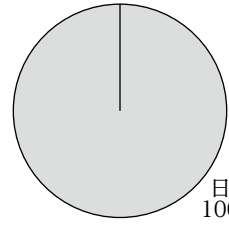
（2022年２月25日現在）

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
第91回利付国債（20年）	国債	2.3%	2026/９/20	日本	21.7%
第359回利付国債（10年）	国債	0.1%	2030/６/20	日本	13.1%
第87回利付国債（20年）	国債	2.2%	2026/３/20	日本	8.7%
第354回利付国債（10年）	国債	0.1%	2029/３/20	日本	8.6%
第63回利付国債（20年）	国債	1.8%	2023/６/20	日本	7.5%
第351回利付国債（10年）	国債	0.1%	2028/６/20	日本	7.3%
第321回利付国債（10年）	国債	1.0%	2022/３/20	日本	7.3%
第67回利付国債（20年）	国債	1.9%	2024/３/20	日本	6.8%
第80回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/６/20	日本	5.9%
第117回利付国債（20年）	国債	2.1%	2030/３/20	日本	4.6%

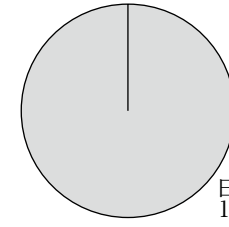
資産別配分



国別配分



通貨別配分



（注１）1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

（注２）組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

＊組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。